

2024年3月期第1四半期 決算説明会 Q&A (2023年7月31日開催)

Q 1. 1Qの中国の需要は一般的に悪化していると思うが、マキノの中国受注は今どのような状況にあるのか？

A 1. 当社の中国受注も全体的には減っていますが、新エネルギー車向けの需要は、他の産業に比べ、それほど落ちていません。引き合いも継続しており、当社としては中国市場が大きく減速することはないと見ています。

Q 2. 今後の需要の考え方について教えてほしい。期初時点では、下期に受注が回復に向かう見通しだった。現時点ではどう見ているか。

A 2. お客様の動向によりまちまちですが、全体的には上期に比べ下期は多少上向くと見ています。

日本は、4Qから来期にかけて回復に向かうと見ています。半導体製造装置向けは3Qから少し上向き、4Qあるいは来上期に本格的な回復に向かうと見ています。自動車向けは、もう少し回復に時間がかかると考えます。

中国は、EV（電気自動車）向けは今後も順調と見ています。EV メーカーが集約されつつあるため、一部のメーカーに生産が集中する傾向にあり、それに伴う設備投資も堅調に推移すると見ています。一方、IT、家電、スマートフォン向けの回復は時間がかかると見ています。

アメリカは、航空機向けに受注、引き合いが増えています。2Q以降も堅調に推移すると見ています。一方、自動車向けの設備投資需要は、景気減速懸念もあり、あまり期待ができない状況です。

ヨーロッパは、3Qから半導体製造装置向けが回復に向かうと見ています。EV シフトに伴う需要は堅調に推移すると見ています。

Q 3. 今の受注環境において、2Q以降、1Qより調達・生産・在庫を増やす計画はあるか。

A 3. 積み上がった受注残の解消に向けて、日本の調達・生産は今の水準が当面続くと見ています。アジアについては、円安の影響からアジア製品の受注が減速気味のため、生産計画の見直しをする予定です。

Q 4. 上期の営業利益計画を15億円上方修正された。その内訳を教えてください。

A 4. 1Qは計画に対し、為替が円安に推移したことに加え、採算の良い案件が増えたことで利益率が改善しました。その結果、上期計画に対する1Qの進捗が想定以上となり、上期・通期の業績計画を上方修正しました。

本資料に記載いたしました将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績は、さまざまな要因により、記載された見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご了承ください。

実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社の提供するサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化等があります。なお業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。